

ゆうかり放送委員会提供

# ゆうかりに乾杯

第135回放送の概要 (2018年7月28日放送)

## パーソナリティ

たろう

(佃 由晃)

なか

(中嶋邦弘)

かりん

(妹尾優香)



## ミキサー

門ちゃん

(門田成延)

## 会計

小山俊則

## 相談役

わたかん

(和田幹司)

## 1. ゲストコーナー (1): 西田真人さん (58 陽会)

本日のゲストは、西田真人さん、兵庫高校の同窓会「武陽会」の58陽会。日本画家で日展特別会員、そしてこの春に京都市立芸術大学教授を退官されて、現在は大阪芸術大学の客員教授でいらっしゃいます。

### (1) 兵庫高校、京都芸術大学の時代

——兵庫区の南の方で育たれ、兵庫高校へ進学されましたね。学校での生活、絵のことなどいかがでしたか？

昔から兵庫は第2学区で、一生懸命勉強して入れと両親も希望してましたが、あまり勉強しなかったのが多分ビリの方で入れたのでしょう。ただ兵庫高校では、東山魁夷先生とか小磯良平先生とかアーティストの話が国語の先生から聞いたり、私自身は元々小さい頃から絵を描くことが好きだったので、高校2年あたりから進学もその方向を考えだしました。というのも、姉の大学友人に絵を描く人がいて、姉が誕生日にモジリア二風の姉の肖像画と画集を貰っていたのを、私が風邪を引いて学校を休んだ時にその画集を引っ張り出して見たんです。思ったより安価だったので、自分でお小遣いを貯めて買い、よく観ていました。高校先輩方の活躍もあり、勉強そこそこでも絵の勉強して描けるようになればいいかな、と思っていました。ただ、準備を始めたのは遅かったんですが。

——高校の部活は剣道部だった？

入学したら部活紹介があって、紹介した部長さんが格好良くて充実した高校生活を送れるかな、と思って入部しました。スポーツは嫌いではなく上手ではなかったが、中学では一応ハンドボール部だったし、身体を動かすことは嫌いではなかった。

——芸術系では、音楽や書道や美術の選択科目があったのでは？

当時は美術がなくて、理科系生徒は音楽か書道の選択で、仕方なく書道をとった。でも高2中頃から美術方面に行きたくなって、担任の先生に相談して高3から美術が受けられるようになった。

——美術系の大学進学を考えて画塾に行かれた？

そういうことは全く知らなくて、最初は自己流で、親に経済的負担をかけなくてよい神戸市の市民絵画教室に通い、2クラスのうち1クラスを受講、他のクラスも良くのぞきに行っていた。高3の時に、美術系大学を受けるには物足りなく、中2の時の担任だった先生の紹介で赤艸社（亀高文子、渡辺一郎）へ行きました。

——先生が日本画をやろうと決められたのは？

母校先輩には日本画の東山魁夷先生と洋画の小磯良平先生。カレンダーの小磯先生の「R. K o i s o」のサインが格好良くて、筆使いや画いているものが分りやすいので、最初は油絵で、デッサンも油絵の先生に習いに行ったりしていた。しかし、浪人が決まって姉と日展を大阪に見に行きました。日展は11月東京で名古屋、京都と、翌年になって大阪で開催されます。油絵はちょっとギラギラした感じですが、日本画の方が光沢の無い感じがすっきり・丁寧な仕事に見えたので、日本画を目指そうと思った。

——芸術系大学を目指されて、関西随一の京都芸大に進学されましたね。

京都画壇には著名な日本画家が多くいらっしゃいますので、日本画を勉強するには相応しいと思った。割と自然に考えて進学したんです。戦後になって、兵庫県で公立美術館が全国2番目にできて、全国に次々と開設されている時で、日本が自国の文化に自信を取り戻し、これに携わることが良いと感じられました。

大学に入る前に3浪しています。家はそれほど裕福ではありませんでしたし、身内に芸術系がないので反対されたのですが、浪人1年目は新聞配達を、2年目には親は私学を滑り止め受験の望んでいたみたいですが、高校時代に先輩からアルバイトの声がかかっていた近所の兵庫区中之島の中央市場の青果店「山利」で午前中だけ勤めさせて貰っていた。小売り屋さんが購入したものをトラックまで運ぶとか、輸入バナナを蒸す部屋に搬入したり、ジャガイモや玉葱など重い物もありましたし、ちょっとは肉体労働的でした。(3年目は父の鉄工所を午前中手伝い) 午後は大阪の画塾に行きました。

## (2) 高校教員生活と創作活動、京都芸大の教授へ

——大学を卒業されてからは？

絵はやりたいが、大学院へは進めなかったので、経済的に落ち着かないと絵は描けないと思っていたので、近くの女子高校に就職した。他に大阪の口もあったが、地元で高校生を相手にする方が自分に合っていると思い、須磨学園女子高校を選んだ。

自分としても褒めてやりたいぐらいコツコツやってくるタイプでしたが、3年も浪人し、大学院も落ちたので自信をすっかり無くしたが、でもやめたいとは思わなかった。好きだったんでしょね。頑張ればできるという自信めいたものもあって、日展へも毎年挑戦することができるし、教員と絵描きを両立できるだろうと。兵庫高校でも竹博士の室井先生や農村舞台・郷土史の名生先生が学校での指導と自分の研究を両立されているその姿を見てきたので、そう感じました。今の教育現場では二兎を追うのはどうかと周りもうるさいでしょう。昔はそういう大らかな環境だったと思います。

——須磨学園におられた時に阪神淡路大震災が起きましたね。

毎日被災の様子を目の当たりにし、学校や母の家(実家)の片付けの手伝いに行ったりしていました。生徒たちの通学範囲が広くて、交通機関が復旧されるまでは午後から2時間程度の授業が続きました。それで、午前中は少し時間に余裕があり、毎日高校近隣の板宿、常盤町、鷹取の被害が酷かった地域や、自分の高校通学時に通りかかっていた菅原市場などテレビによく取り上げられているのを見て、絵描きとして惨状を描き留めたいと思った。被災地をスケッチしていた時に、被災者の心情を慮って遠慮がちにしていたら、片付けなどで訪ねて来られた被災者から、「大事なことから頑張ってください」と逆に励まされ、それで気を取り直して本格的に写生に取り組みました。

——この放送はYouTubeでも配信していますので、先生の倒壊・被災状況を書かれた絵を画面に出しています。

常盤町のゴム工場がV字型に建物が倒壊し、難破船のような感じがしました。私の絵は一見そのままの様ですが、描きたかったのは災禍の壮絶さで、現場の状況は尊重しますがある程度は色々な場面を合成します。奥の場面はそのままですが、手前の部分は別の場所のものです。

——高校での指導のほかに、自身の創作活動もされていて、もっと集中したいと生活のペースを変えられたとか。

当時の教え子たちには申し訳ないが、学校教師の仕事は際限の無いところがあって、心を鬼にして終業時間が来たら帰宅して創作活動をやっていました。また、校内の準備室が利用できたので、そこで下絵をやり、自宅では本画をやるというサイクルで、睡眠時間を削って大学受験の時よりも頑張っていた。当時は既に結婚しており、夕食後に少し仮眠して家内に起こして貰っていたが、中々起きれなくて困らせた。



倒壊下絵 1995年



日展特選 黒いアーケード 1995年

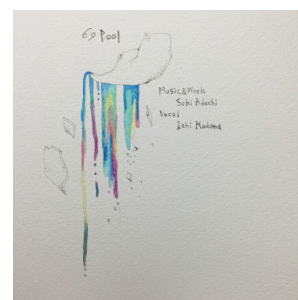
——そういう活動をされながら、また一つの転機が？

日展では特選を2回頂いていましたし、区切りとして教員は専任を辞退して創作活動の時間を増やしていきました。ただ、そんな時、癌にかかっているのが判りました。ちょうどその3年前から私の絵のファンという脳神経外科のお医者さんに請われて絵を教えていたので、その先生と相談しセカンドオピニオン等と時間は取らず、手配を受けて直ちに入院治療しました。正に「芸が身を助く」でした。

癌で落ち込んでいた丁度その頃、母校の大学から声がかかりました。母校の准教をしていた大学同期生が同じく癌で突然亡くなられ、私もお葬式にも参列したのですが、その欠員公募に声がかかった訳です。順調に面接にまで残った時に、私に癌の転移が判明して、また手術を受けることになりました。今描いている絵も絶筆になるかと緊張感一杯にやっていた時でした。手術とか治療とか幸運にも周りの方々のお世話で危機を乗り越えて来られたと思っています。ちなみに、京都芸大教授に入った頃は、兵庫高校卒業生の先生方が4名いらっしゃいました。丁度55歳の時に大学で教鞭を執ることになって退官が65歳の10年間、高校の30年と合せて40年の教員生活に、今も大阪芸大に行っています。価値観を共有できる学生たちと接することができるのは幸せなことです。

## 2. ミュージック：「Pool」アーティストアダチ彩季・小玉唯智

今、お送りしている曲は、「アリの巣メルヘン」のアルバム「12星座シリーズ」より7月蟹座の曲「Pool」、作詞作曲編曲アダチ彩季（さき）、歌は小玉唯智（いち）です。



## 3. ゲストコーナー (2)

### (3) 創作活動と展示会、個展のことなど

——先般、事前にお話をおうかがいしにお宅にお邪魔した際に、書斎の大きな墨絵（模写）が架かっていましたが、あれは？



今から1000年ほど前の中国、北宋の時代の范寛（はんかん）という山水画家で、日本画を志す人はよくご存知の画家です。台湾の故宮博物院にあって、昔から気になっていた絵で、漫然と見るだけじゃ物足りないので模写しようと思いました。実物は高さ2mの作品で、4分の3の大きさに模写しました。細密描写の范寛が墨だけでどっしりと重厚に描いているのを学べますし、自分の家に飾って座右の銘じゃないが、見て気を引き締めたいと思いました。

——先生の高校、大学を通じての創作活動も段々注目を集めてこられた。



背景画は山水画家范寛の模写

個展の話があり、はじめはイギリスを中心にドーバー海峡を挟んでの巨石文化に注目しストーンヘンジとかミステリアスなものを目当てに取材に行きましたが、むしろまだ誰も手掛けていない題材として、イギリスの産業革命以降の風景に注目するようになりました。

活動も順調で、東京や京都のデパートから個展の話を頂いて題材を考えていた頃でしたが、ちょうど阪神淡路大震災が起き、イギリスの題材は取りやめ、震災をテーマとしました、東京、京都、神戸で開催しました。神戸にとって震災という負の部分を取り上げた後ろめたさもあったので、次の個展では反対に、格好良いスマートな神戸を描きたいと、ハーバーランドの夜景とかヴィーナスブリッジ（諏訪山）から見た神戸の黄昏がれる風景など、本来の「美しい神戸」描いた内容として東京と神戸で個展をやりました。



輝く街 1999年

日展作品は2000年までは題材が地元の神戸中心でしたが、世紀が変わった2001年からは、題材を神戸から離れ、イギリスをテーマに描き、新しい展開を考えました。そのうち、母校の大学に勤めるようになって、若い人たちと接するようになったら、自分の若い時に自由に考えていたことが、年を経て知識も加わることによって臆病になり殻に閉じこもるようになっていたのではないかとの反省点もあった。40歳頃から、文化勲章を受章された日本画家の池田遥邨先生の研究会（青塔社）に入れてもらい、月に1回、絵を描いている者が作品を持ち寄ってお互いに批評し合っていた。先生の書「絵事循環」という言葉を頂いていたが、含蓄のある言葉で、制作の上で日々、色々なことを考えさせられます。

大学では若い人たちの様子を見る（指導する）、研究会では作品と対面して色々考えることをしていた。『神戸家族』の雑誌（パンフレット）の表紙を描いており、そこでは少し抽象的なことをやろうと、それまで具象表現の絵を多く描いていたので、抽象表現に取り組んだり、またそれらを

合体させたりして、自分の中でも制作がうまく循環し出した。

——負の神戸と美しい神戸を対比させるようなことも？ また震災と言えば仏画もテーマに？

父親の鉄工所でよく見た鉄の錆びたものとか、元々鮮やかな色合が時間の経過とともに変わってゆくのか、時間の経過が創る古色。古色を帯びた仏画の持つ癒しを思い、震災をテーマにすると、最後に癒しが無いといけないと思い、展覧会の構成として、神戸にある芸術性の高い仏像を描いて展覧会締めくくるとしました。

——全国の「一の宮」を回って描かれるという壮大な計画を実行されているとか。兵庫県内の一宮はどこになりますか？

「北は北海道から南は沖縄まで全国に101ある一の宮を描いてくれないか」と兵庫高校卒業生で友人の実業家として成功されている熱心な神道の方からのご依頼を引き受けた。今回は101社のうちの32社を中心に、ここに至るまでの震災風景など初期作品も交えて、中間発表のつもりで、この10月6日から「神戸ゆかりの美術館」で展示します。

兵庫県には淡路国、播磨国、摂津国、但馬国、丹波国と五国があります。平安時代から鎌倉時代にかけて制度が整ってゆきますが、その時の貴族とか武士とかの政権によって崇拝する神社が変わってきます。単に神社の社殿を描くだけではみんな一緒になって俗っぽい感じがするので、自分なりのルールを設けて、まず本殿・拝殿はきちっと写生し、本画は自由に描くこととし、写生と本画をセットで描くようにしました。

但馬国は出石神社(豊岡市)と朝来市に粟賀神社。粟賀神社は今では寂れているような場所です。淡路国(淡路市)の伊弉諾神宮は、伊弉諾尊が晩年に幽宮(かくりのみや)という隠居されたところが御陵になって、明治時代に陵の上に神宮を建てたもの。神宮の東門から裏手に回ると神社そのものが古墳のように見えます。時間帯で空の割れ目から日が差して、とてもドラマチックな風景です。播磨国(宍粟市)の伊和神社は鬱蒼とした森に品の良い神社が鎮座。一の宮といえば出雲大社とか鶴岡八幡宮とか厳島神社とかポピュラーな神社が多く、絵にするには困らないが、あまり有名ではない兵庫の一の宮はどうかと心配していたが、かえって鄙びた静かな清々しい感じを受けた。

——兵庫県以外ではどこの一の宮を描かれました？

鶴岡八幡宮などは全くの観光地で物見遊山的ですが、写生していると色んな方が参拝に来られます。サラリーマン風の方、商売をされているような人などの素直な参拝風景、信仰の形があります。堺の大鳥神社ではスポーツマン風の方が、連日、石畳を数えながらの歩調で参拝されるなど。みんなそれぞれ人生の中でのここ一番勝負時にお願いに来られているのか。また最近は御朱印を頂くのがブームで、若い人も多い。

一の宮を描くうえで、その地の生活、四季の移ろいとか、御神体の山、境内の古木など風景としても美しく感じます。

静岡県の三島大社では金木犀の御神木なども絵になりそうですが、インパクトのある名前の「たたり石」を描きました。「たたり」とは糸が纏れないようにする具のことで、東海道五十三次の三島宿の神社前に、富士山の噴火の泥流で流されてきて、街道の往来をその石が整理する役に立っていたのでそう呼ばれていましたが、交通量が増えると邪魔になり除去しましたが、不吉なことが続き、やはり「たたりじゃ」ということで、神社でお祀りしてもらったとか。その石が持っている江戸時代の人々との繋がりなどの物語見えてきます。



たたり石



——神社を描くだけではなく、その地に纏わる歴史を、人々の生活やその雰囲気までを感じ取られているみたいですね。

絵を描くのは楽しい。またこの頃、書店で古代史の本が気になっています。グラフィックで写真が多く載っているものなど、読んでいると下地になってくるし、神社の由緒とか分かってくる。九州でいえば、鹿児島神社の祭神は隼人、海彦、奈良の大神神社は山彦とか、古事記の象徴的な話など、また天皇が祀られている神社も多い。10月の展覧会では、400字ほどの各一の宮のコメントを付けています。

また、絵の依頼主が自宅に神殿を造られて、伊勢神宮をテーマにした杉戸絵を頼まれました。表裏12面で、表面は1面が造作で隠れるので2面を内宮と3面が外宮、裏面には五十鈴川を渡ると松が並ぶ。この松を見直し構成して創作しました。



杉戸絵外宮

10月6日から12月9日まで、六甲アイランドのファッション美術館の建物内の「神戸ゆかりの美術館」で、全部で106点、震災は写生で、ほか兵庫区の街の風景、日展のイギリス風景、一の宮の作品が並ぶ構成で展示されます。

#### 4. こぼれた話こぼれなかった話：兵庫県の高校でも遠隔授業

(1) みなさん、最近テレビの通信会社CMでご覧になったことがあると思います。遠く離れた学校の教室を情報通信システムで結んで同時に共同で授業ができる、あれが今年度から兵庫県の高校で始まります。小規模校を対象に、テレビ会議システムとタブレット端末を使った遠隔授業です。調査研究の段階・実験で、宍粟市の千種高校と朝来市の和田山高校とを繋いでいます。

(2) 県内の高校に通っている生徒は約10万8千人。ピークの平成元年から約4割減です。それで、閉校になったり、統廃合されたり、学級減が進められてきました。

(3) 高校は地域のシンボリック存在で、無くすのは馴染んだ地域にとって偲びがたいものです。それで県教育委員会は当面は統廃合しないで学級減で対応したいとしています。ですが、学級が減ると教員は生徒数に応じて決められるために小規模校では専門科目を中心に常勤教員を確保、配置できないなどの問題が起きています。

(4) そこで、小規模校2校の教室それぞれに2～3面のスクリーンを設置し、相手校の教室や教材を映し、生徒にはタブレット端末を1人1台配布して、教員はどちらかの教室で授業し、遠隔地の生徒ともスクリーンなどを通じてやりとりし、タブレットを使ったグループワークもやることになりました。

(5) 県教育委員会は、生徒数が少なくても教育の質を確保し、生徒たちにとっても同年代の多様な価値観に触れて刺激を得られる、と言っています。

#### 5. ゲストコーナー (3) 小林正美さん (64陽会)

——今日は、西田先生を紹介いただきました武陽会理事長の小林正美さん(64陽会)にお越しいただいています。西田先生との出逢いは？

武陽会が兵庫高校で1年に1回開催している「母校に帰ろう」というホームカミングデイの企画

の一環で、講演会などのメインのほかに、西田先生には美術部の生徒たちとのコラボレーションをやっていただいた時と、その以前に、西田先生と神戸ゆかりの美術館の学芸員さんと展示品の打ち合わせをされた時に、石井校長先生から連絡があって同席させていただいた時が初めてでした。

また、兵庫高校創立110周年記念として、武陽会が管理している東山魁夷先生の日本画、小磯良平先生の洋画の両巨頭の作品を兵庫県に寄贈しました。武陽会としては、長年背負ってきた肩の荷を降ろし、ホッとしているところです。

## 6. 地域瓦版

(1) 西田先生の絵は、10月6日から「神戸ゆかりの美術館」でご覧いただけます。沢山の方々に先生の絵の世界に触れていただきたい。以前京都で先生の退官記念展に行きましたが、展示室におられた学芸員さんともお話しして、偉ぶる先生方が多い中で西田先生のお人柄には感服しております、とのことでした。

(2) 兵庫県政150周年記念イベント第48回みなとこうべ海上花火大会が、8月4日、19:30から20:30に開催されます。当日の15時に決行かどうかが決まります。

(3) 最後に、兵庫高校校歌4番を。「文化の国の あけぼのは、ここより生れん ほのぼのと・・・」

ゆうかりに乾杯の過去の放送音声と文書化した放送概要は、下記 URL で視聴いただけます。

<http://yukari-ni-kanpai.sakura.ne.jp/>